

沖縄の長寿企業の意識調査



(10月のごあいさつ)

平成21年10月14日(水)

10月は沖縄の初秋です。朝夕の涼風が残暑を押しやりつつあるという感じがします。

最近、ファミリービジネス研究所 沖縄本部で沖縄の長寿企業の代表者に対する意識調査を行い報告書を作成しました。

調査のテーマは「**どうすれば沖縄を強くできるか**」ということで、その回答は「**沖縄の経済発展の要因である企業を強化する**」、「**企業の強化の方法は、戦略であり、それはガバナンス、顧客の満足、チャレンジ精神、人財の育成、財務の充実、社会的責任である**」という結論に結びつけようと無理をしました。

日経のシリーズ「**200年企業**」を読まれたことがあると思います。人でも企業でもこの社会に存在し活動すること自体に価値があります。

特に企業については、地方自治体等が経済や財政の充実のために、勿論それは特別の企業ではありますが、積極的に誘致活動を行って、地方の活性化のために役立てようとしています。企業はその存在自体が地域にとって必要なのですから、それが存続することは更に重要です。そして存続する企業が地域の活性化に役立つことによってその地域は発展すると思います。

このような企業の発見と成長要因の調査と育成の方法がファミリービジネスの研究だと思っています。そのような企業が、多くの成長性の高い企業の中にあるのか、長寿企業の中にあるのか、それがどれなのか、今のところはっきりとは解りませんが、地域の核になるしっかりとした企業は沖縄にも100社位はあると思います。

私の意見を結論から言うと、沖縄を強くするには、沖縄の約100のしっかりとした企業を強化することである。沖縄の100社とは、選ばれた強い100社である。強い100社のイメージは、依存心のない自立的企業であること、本業のDNAが100年以上と思われること、地域の発展を志すファミリービジネスであることなどであると思っています。

このような100社をどのようにして探せばよいかということで、商工リサーチのデータベースから一定規模以上の売上と従業員規模の会社(上場、銀行、マスコミ、補助金受取会社等を除いて)を創業年の長い順に約100社選定して調査しました。そして、アンケート先企業等に作成した報告書を送りましたが、どうも反応が良くありません。地域発展の核になるファミリービジネスというものに対する認識がうすいのでしょうか。まだ、ファミリービジネスは単なる同族会社という認識なのではないでしょうか。報告書を届けて説明すると解ってもらえたような手応えはあるのですが。

この報告書、読んで見ようと思う方がありましたらご送付致しますので事務所までご連絡下さい。